

親会には二四名の参加があり、ここでは優秀若手研究者賞三名と実行委員長賞五名の表彰式を行い、和やかな中にも熱気が感じられる懇親会となりました。熊本開催の特色を出すために、水保病と熊本の地下水の展示も行いました。お蔭様で本フォーラムは高い評価を得て、盛会の内にお慶びにすることができました。

ご支援を賜りました財団法人肥後医育振興会を始め各団体・企業、ご後援をいただきました関連学会に、また、ご講演を賜りました医学薬学研究部の先生方により感謝申し上げます。

### 第二十四回熊本医学・生物科学国際シンポジウムの開催のご報告とお礼

熊本大学大学院医学薬学研究部 分子遺伝学分野 第二十四回熊本医学・生物科学国際シンポジウムは、分子遺伝学分野 尾池と循環器病態学分野 小川久雄教授が組織委員会代表を務め、学内の拠点形成研究B「ライフスタイルとストレスシグナルの先端研究拠点」の平成二十年度シンポジウムと、日本血管生物学会とのジョイントシンポジウム「KMBS-JVBM Joint Symposium on Vascular Biology 2008」との合同シンポジウムとして、平成二十年十一月二十七日に熊本大学医学部附属病院内の山崎記念館において開催致しました。

本シンポジウムは一九八四年以来、毎年開催され、それぞれの時代の要請に応じたテーマを取り上げ、熊本における医学・生物科学の発展に大いに貢献して参りました。第二十四回本シンポジウムではテーマを「血管医学研究・臨床の最前線」と定め、熊本における「心筋梗塞、狭心症、脳卒中などの動脈硬化を基盤病態とし既存の血管網システムが破綻する虚血性疾患」に関する研究及び臨床の進展、当該領域における若手研究者及び医師の研究と臨床の意識の向上、国際感覚の醸成を目的にGou Young Koh教授 (KAIST, Korea)、Napoleone Ferrara 先生 (Genetech, USA)、Kenneth Walsh 教授 (Boston University, USA)、Thomas Michel 教授 (Harvard University, USA)、Theodor Korfidis 准教授 (National University of Singapore)、Andreas Koster 教授 (Deutsches Herzzentrum Berlin, Germany)、中尾篤典先生 (ユツバーク大学・心臓血管外科)、山下潤准教授 (京都大学再生医学研究所、高倉伸幸教授 (大阪大学微生物研究所)、南野徹助教授 (千葉大学循環器内科)、佐田政隆教授 (徳島大学循環器内科)、中村淳客員教授 (熊本大学)、高梨秀一郎先生 (榊原記念病院心臓血管外科) という国内外の第一線で活躍中の研究者・医師に講演頂きました。

討論はいずれの講演においても白熱したものとなり、医学・医科学の発展にも充分寄与できたものと考えます。一五〇余名の方々のご出席を頂き、盛会のうちに無事、シンポジウムを終了することができました。これもひとえに財団法人肥後医育振興会、熊本大学、大学院医学薬学研究部、医学教育部、医学部の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。紙面をお借りして御礼申し上げます。

### 第九回熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップ開催のご報告

熊本大学医学部医学科長 竹屋 一元裕

第九回熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップは、暮れも押し詰まった平成二十年十二月二十七日(土)、中央診療棟七階の総合臨床研修センターにおいて開催されました。本ワークショップ開催の背景には、十年ほど前から全国的にはじまった医学教育改革があります。従来、我が国の医学教育は各大学の独自性に任ざれてきましたが、近年の生命科学の発展や臨床医学の進歩、あるいは医学・医療をとりまく社会的変化に対応するために、全国共通の医学知識を教育する必要があるという理念のもとで、平成十三年に医学教育モデル・コア・カリキュラムが制定されました。このカリキュラムでは、医学部で習得すべき学習内容の三分の二程度をコア化(標準化)するとともに、従来の学問体系別ではなく、統合型(臓器・系統別)カリキュラムとなったことが大きな特徴です。さらに、このような新しい医学教育体制に対応するため、チュートリアル教育やPBL (Problem-based learning) などの新しい教育手法が導入されました。これに伴い、新しい教育カリキュラムや教育手法を導入するために、医学科教員の教育能力の向上を目的として、全国的にFDワークショップが開催されることになりました。

本学における第一回の医学教育FDワークショップは平成十二年九月に市内のホテルで二日間におわたって開催され、当時の尾島昭次医学教育学会会長および畑尾正彦副会長をタスクフォースとしてお迎えし、新しいスタイルの医学教育の在り方を学びました。耳慣れない教育学の専門用語に戸惑いながらも、ノーネクタイで、すべての参加者を「さん」と呼び合う職員の垣根を取り払ったリアフリーなスタイルに新鮮な驚きを覚えました。その後、阿蘇の保養施設や市内の宿泊施設を利用した一泊二日のワークショップを経て、前回の第八回から学内の臨床教育研修センターを利用して、一日で行うコンパクトなスケジュールに変更いたしました。

今回のワークショップでは前回に引き続き、慈恵大教育センター長・福島統教授をチーフタスクフォースとしてお迎えして、教員三四名と四年生および五年次の学生八名の参加のもとで開催されました。今回はこの数年間に急速に議論が高まってきた地域医療の危機と再建に関連して、「熊本の地域医療、問題点と解決策」というテーマについて、六つのグループに分かれてグループワークを行いました。その後の全体討議では、各グループから地域医療に関する問題点の抽出と解決策について発表があり、活発な討論がなされました。さらに、例年のようにチュートリアル教育で利用可能なシナリオ作成に取り組んで戴きました。最後の「一人一言感想」では、全ての参加者から、異口同音に有意義で楽しい経験だったとの感想が述べられ、主催者の一人として大変嬉しく思いました。

このワークショップは、すべての教員が少なくとも一度は体験すべき医学教育FDとして位置づけられ、これまで多くの教員の方々に参加して戴きました。第四回以降は学生の参加も得て、学生の視点を取り入れた医学教育改革の議論もなされるようになりました。このような取り組みを通して、本学の医学教育のあり方も徐々に改善されているものと思います。最後になりましたが、この医学教育FDワークショップの開催に際して、活動の意義を高く評価して戴き、種々のご支援を戴きました肥後医育振興会に厚く感謝申し上げます。

### 平成20年度助成状況

#### ●平成20年度医学教育研究助成金

受賞者	助成金額
菺原 義弘氏 大学院医学薬学研究部 細胞病理学 助教	150,000円
中浦 猛氏 大学院医学薬学研究部 画像診断解析学(寄附講座) 特任助教	150,000円
永吉 靖央氏 医学部附属病院 循環器内科 助教	150,000円
日吉 真照氏 エイズ学研究センター 予防開発分野 特定事業研究員	150,000円

#### ●平成20年度医学国際交流助成金(外国人留学生奨学金)

受賞者	助成金額
謙 俊(チン シュン)氏 医学教育部・修士課程1年 (中国) 分子病理学分野	150,000円
謝 佩玉(シャ ハイギョク)氏 医学教育部・博士課程1年 (中国) 分子病理学分野	150,000円
盧 溪(ル シ)氏 医学教育部・修士課程1年 (中国) 臨床行動科学分野	150,000円
哈斯塔(ハスタ)氏 医学教育部・博士課程1年 (中国) 消化器外科学分野	150,000円

#### ●平成20年度医学研究会・研修会助成金

助成対象事業	開催期間	助成分野(申請者)等	助成金額
第10回人体解剖学実習セミナー・熊本	8月18～29日	大学院医学薬学研究部 形態構築学分野 児玉公道教授	100,000円
熊大病院群医師卒後研修プログラム 研修医育成	9月1日～3月31日	医学部附属病院長 倉津純一教授 総合臨床研修センター長 興梧博次教授	200,000円
第32回タンパク質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	9月11～13日	大学院医学薬学研究部 分子病理学分野 今村隆寿准教授	100,000円
フォーラム2008 衛生薬学・環境トキシコロジー	10月17～18日	大学院医学薬学研究部 環境分子保健学分野 高濱和夫教授	100,000円
本九祭(医学展)	11月1～2日	実行委員長 医学部医学科3年 中村悠太	150,000円
薬学展	11月3日	実行委員長 薬学部3年 品川拓也	50,000円
第9回 熊本大学医学部医学科 医学教育ワークショップ	12月27日	医学部医学科長 竹屋一元裕教授	96,000円

#### ●平成20年度医学国際交流助成金

助成対象事業	開催期間	助成分野(申請者)等	助成金額
第24回熊本医学・生物科学国際シンポジウム	11月27日	大学院医学薬学研究部 分子遺伝学分野 尾池雄一教授(実行委員長) 大学院医学薬学研究部 循環器病態学分野 小川久雄教授	700,000円